



# CHAPTER 14

## IPSLA デバイスの管理

---

ここでは、次の内容について説明します。

- [\[IPSLA Devices\] ページについて](#)
- [IPSLA デバイスの表示](#)
- [DCR のデバイスの自動インポート](#)
- [アドホック ターゲット デバイスの追加](#)
- [デバイスを追加するときのライセンス動作](#)
- [IPSLA デバイス属性の編集](#)
- [IPSLA モニタリングからのデバイスの削除](#)

## [IPSLA Devices] ページについて

デバイスで IPSLA モニタリング機能を使用するには、まず Device Credential Repository (DCR) にデバイスを追加する必要があります。IPSLA モニタリングには、アドホック ターゲット デバイスを追加することもできます。

IPSLA モニタリングに追加されたデバイスは、DCR およびアドホック ターゲット デバイスのどちらからの場合でも、[IPSLA Devices] ページに表示されます。

表 14-1 に [IPSLA Devices] ページで利用可能なフィールドとボタンを示します。

表 14-1 [IPSLA Devices] ページ

フィールド/ボタン	説明
IPSLA Devices	LMS のデバイスをすべてリストします。 デバイスは、Device Credential Repository (DCR) への追加の際に入力した [Device Name] によって識別されます。
Add Adhoc Target	アドホック ターゲット デバイスを追加できます。 詳細については、 <a href="#">アドホック ターゲット デバイスの追加</a> を参照してください。
Edit Device Attributes	デバイス属性を編集できます。デバイス属性には次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SNMP Retry</li> <li>SNMP Timeout</li> </ul> 詳細については、 <a href="#">IPSLA デバイス属性の編集</a> を参照してください。
Update IPSLA Config	<ul style="list-style-type: none"> <li>IPSLA 応答側のステータス (イネーブル/ディセーブル) を更新できます。</li> <li>データベースに接続したデバイスの設定に関する最新情報を保存できます。</li> </ul>
Enable IPSLA Responder	選択したデバイスに対する応答側をイネーブルにします。 次のものに対する IPSLA 応答側はイネーブルにできません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IPSLA 非対応デバイス</li> <li>アドホック デバイス</li> <li>読み取りと書き込みのクレデンシャルおよび読み取り専用クレデンシャルが不正なデバイス。</li> </ul>
Delete	IPSLA モニタリング機能を管理するデバイスを削除できます。 詳細については、 <a href="#">IPSLA モニタリングからのデバイスの削除</a> を参照してください。
Refresh (アイコン)	デバイスの数を更新するために使用します。

## IPSLA デバイスの表示

[IPSLA Devices] ページは、[Device Type Groups]、[Responder Enabled Devices]、および [Adhoc Target Devices] ([Monitor] > [Performance Settings] > [IPSLA] > [Devices]) に基づいてすべてのデバイスをリストします。

- [All Devices] : アプリケーションの DCR デバイスをデバイス名とともにすべてリストします。デバイス名は DCR にデバイスを追加する際に定義されます。

- [Device Type Groups] : グループおよびサブグループのデバイスを MDF タイプに基づいてすべてリストします。
- [User Defined Groups] : グループ ルールを満たす IPSLA デバイスをリストします。グループ ルールは [IPSLA Collector Group Administration] ページ ([Admin] > [System] > [Group Management] > [IPSLA Collector]) で定義されます。
- [Responder Enabled Devices] : 応答側がイネーブルなターゲット デバイスをすべてリストします。
- [Adhoc Target Devices] : IPSLA モニタリングに追加されたアドホック ターゲット デバイスをすべてリストします。

IPSLA デバイスを表示するには、メニューから [Monitor] > [Performance Settings] > [IPSLA] > [Devices] を選択します。

[IPSLA Devices] ページにデバイスのリストが表示されます。

## DCR のデバイスの自動インポート

[Enable Auto Mode] オプションをオンにすると、Device Credential Repository (DCR) に追加されたデバイスが自動的に IPSLA モニタリングに追加されます。このオプションは、[Inventory] > [Device Administration] > [Device Allocation Policy] から利用できます。

このオプションは、デフォルトでイネーブルです。したがって、DCR に追加されたデバイスは自動的に IPSLA モニタリングに追加されます。

## アドホック ターゲット デバイスの追加

このオプションを使用して、外部ソースからデバイスを管理したい場合にアドホック ターゲット デバイスを IPSLA モニタリングに追加できます。アドホック デバイスには、シスコ デバイスまたは固有 IP アドレスを持つデバイスが利用できます。

追加されたデバイスは、デバイス ライセンス カウントには含まれません。

アドホック ターゲット デバイスを追加するには、次の手順を実行します。

---

**ステップ 1** [Monitor] > [Performance Settings] > [IPSLA] > [Devices] 選択します。

[IPSLA Devices] ページが表示されます。

**ステップ 2** [Add Adhoc Target] をクリックします。

[Add Adhoc Devices] ページが表示されます。

**ステップ 3** [Adhoc Devices] フィールドにターゲット デバイスのホスト名/IP アドレスを入力します。



---

(注) カンマで区切ると、複数のデバイスを追加できます。

---

**ステップ 4** デバイスの IPSLA 応答側をイネーブルにする場合は、[Enable IPSLA Responder] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** [ADD] をクリックしてアドホック ターゲット デバイスを追加します。

デバイスの追加が完了したことを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 6** [OK] をクリックします。

## デバイスを追加するときのライセンス動作

Device Credential Repository (DCR) からデバイスを自動または手動で追加する際は、IPSLA デバイス ライセンスによる制限を受けます。

### デバイスを自動で追加する際のライセンス動作

[Enable Auto Mode] オプションをオンにし、[Auto Allocation Setting] で [Managing All devices] オプションまたは [Manage by groups] オプションをオンにしている場合、DCR から IPSLA モニタリングにデバイスを自動的に追加できます。

### デバイスを手動で追加する際のライセンス動作

DCR から自動的にデバイスをインポートしたくない場合は、DCR から IPSLA モニタリングにデバイスを手動で追加できます。

## IPSLA デバイス属性の編集

[IPSLA Devices] ページにリストされている 1 つまたは複数のデバイスの属性を変更できます。アドホック ターゲット デバイスは変更できません。

変更できるデバイス属性は次のとおりです。

- [SNMP Retry] : システムが SNMP を使用してデバイスへのアクセスを再試行する回数です。デフォルト値は 3 です。最小値は 0、最大値は 6 です。
- [SNMP Timeout] : アクセスを再試行する前に、システムがデバイスの応答を待機する時間です。デフォルト値は 2 です。最小値は 0、最大値はありません。

IPSLA デバイス属性を編集するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** メニューから [Monitor] > [Performance Settings] > [IPSLA] > [Devices] を選択します。

[IPSLA Devices] ページが表示されます。

**ステップ 2** デバイス属性の編集が必要なデバイスを選択します。

**ステップ 3** [Edit Device Attributes] をクリックします。

[Device Attributes Information] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** [Devices] セクションから目的のデバイスを選択します。

**ステップ 5** [Device Information] セクションで次のデバイス属性を変更します。

- [SNMP Retry] (0 ~ 6)
- [SNMP Timeout] (最小値 0 秒)

[Apply to all Devices] チェックボックスをオンにすると、任意のデバイスの属性を [Device] セクションにリストされている他のすべてのデバイスに適用できます。

**ステップ 6** [Modify] をクリックします。

選択したデバイスの属性の変更が完了したことを示すメッセージが表示されます。

ステップ 7 [OK] をクリックします。

---

## IPSLA モニタリングからのデバイスの削除

[Enable Auto Mode] オプションをオンにすると、Device Credential Repository (DCR) に追加されたデバイスが自動的に IPSLA モニタリングに追加されます。このオプションは、[Inventory] > [Device Administration] > [Device Allocation Policy] から利用できます。

このオプションは、デフォルトでイネーブルです。したがって、DCR に追加されたデバイスは自動的に IPSLA モニタリングに追加されます。

IPSLA モニタリングから手動でデバイスを削除することはできません。

IPSLA デバイスは、次のコマンドライン インターフェイスのコマンドを使用して削除することもできます。

```
ipm deletedevice -u admin -p admin -device Display Name
```



(注) [Permission Report] ([Reports] > [System] > [Users] > [Permission]) を表示してこのタスクを実行する権限があるかどうかを確認します。

---

